

2012年2月10日

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097
 ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>
 発行:安房農業事務所地域振興部改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



青空の下に広がるお花畑

観光花摘みで 地域活性化

安房地域では冬季に観光花摘みが盛んに行われています。安房農業事務所では、平成20年度から南房総市千倉町の磯花会（会長・坂本文蔵氏）を対象に、地域農業の振興、耕作放棄地の拡大防止を図るため、切り花の栽培技術改善、花摘み客のニーズ調査、効果的なPR法の提案、組織力を生かした花摘み園の運営支援を行ってきました。

磯花会では、「なでしこ（ダイアンサス）」など花摘み客に人気があり栽培しやすい品目を取り入れながら、栽培を拡大しています。

また、花摘み終了後も観光客を誘致するためソラマメ栽培にも力を入れ始めました。収量を上げるための整枝・誘引方法などの栽培管理技術を工夫し、観光摘み取りだけでなく市場出荷も行う予定です。

安房でもできるニンニク栽培

ニンニクの産地と言えば青森県が有名ですが、四国や九州など温暖な地域にもニンニクの産地があります。近年、安房地域でもニンニク栽培に挑戦する方が増えつつあり、直売所や市場への出荷も行われています。経営上の特徴と温暖地での栽培のポイントを紹介いたします。

経営上の特徴

- ①栽培期間が9ヶ月と長い。
- ②栽培中の労力は比較的少ない。収穫調整に時間がかかる。
- ③種球代が10aあたり20万円程度かかり初期経費が大きい。
- ④温暖地では寒冷地より1ヶ月早い5、6月に収穫・出荷できる。

栽培のポイント

品種選び 冷涼な気候を好む寒地系品種(「ホワイト6片」など)と、暖地系品種の2系統があります。「上海早生」

や「平戸早生」などの暖地系品種が栽培しやすい品種です。
定植 株間、畝間それぞれ15〜20cm、深さ5cm程度で定植します。

肥培管理 肥料は10aあたり成分で窒素22kg、リン酸29kg、カリ21kgです。全量基肥もしくは2回程度の追肥と組み合わせて施用します。窒素の過剰はりん片の肥大を阻害するので注意が必要です。また、追肥時に土寄せを行いりん片の地上部への露出と株の倒伏を防ぎます。

収穫 抽台したとう(いわゆるニンニクの芽)を切除してから15日後を目安に収穫します。但し抽台の時期はばらつくので試し掘りをして収穫のタイミングを見極めます。目標収量は1t/10aです。
※抽台しない品種もあります。

健康な苗で
おいしい米づくり

種子消毒などを行っても、育苗中にもみ枯細菌病、褐条病等の細菌病が発生する場合は、以下の点にご注意下さい。
薬剤等での消毒

- ①用土・箱・覆土をフタパロンA粉剤など細菌病に登録のある薬剤で消毒します。育苗箱も感染源になることがあるので可能なら消毒します。
- ②種子・化学合成農薬、微生物農薬、温湯消毒等の処理方法があります。薬液の浸漬処理は、水温10〜17℃で行います。10℃以下だと発芽率、薬効が低下し、20℃以上だと細菌が増殖します。また、種糊・薬液の容量比は1:1以上にして、時々攪拌します。
※農薬を使用する際は、ラベルをよく読み、登録内容を確認してからご使用下さい。

- ①用土の量・1箱の適正量は人工培土で床土が3kg、覆土は1〜1.5kgが目安です。
- ②は種量・極端な厚播きを避けます。1箱当たり乾初量の目安は130〜150g程度です。
- ③は種の早限・安房では主要品種は3月20日、ヒメノモチ、ゆめかなえは4月5日です。
- ④かん水・1日1〜2回、苗の葉が巻き始めたら行います。寒い時はかん水をやめます。プール育苗は水位を土表面より上にします。
- ⑤温度管理・高温だと細菌病が蔓延しますので適温を守りましょう。催芽、出芽時は28〜30℃で管理します。緑化時は昼20〜25℃、夜10〜20℃、硬化時は昼25℃以下、夜5〜10℃で徐々に外気温に慣らします。苗は極端な温度変化に弱いので特に注意が必要です。

ご注意ください！米トレーサビリティ法が平成23年7月1日から完全施行されています。内容は取引の記録、保存、産地情報の伝達です。

安房地域での新たな 自給飼料生産の取組み

平成18年からの飼料価格の高騰対策として動き出した、安房地域の新たな自給飼料生産の取組みを紹介します。

1 滝田自給飼料生産組合

三芳地域で平成21年度に、酪農家4戸、耕種農家1戸で組織された組合です。

飼料用トウモロコシとソルガムの混播を中心に細断型ローレルとラッピングマシンによるサイレージ調製を共同で取り組んでいます。

2 コントラクター組織「和田」

和田地域で平成22年度に酪農家17戸で組織し、今年度から自給飼料生産の作業受託を開始しました。

は種から収穫調製を細断型ローレルとラッピングマシンでサイレージ調製してきます。出来上がったサイレー

ジは、千倉地域にあるTMRセンターへ販売しています。TMRセンターを利用して酪農家は自給サイレージをTMRにして供給してもらっています。



収穫作業

3 耕畜連携による稲WCSの取組み

富山地域では、今年度から稲作農家と繁殖和牛農家が連携して2haの稲WCSの取組みを開始しました。

田植えから7月末までの管理を耕種農家が行い8月の稲WCSの収穫を繁殖和牛農家が担当しました。

経営研修会が開催されました

11月9日と11日の2日にわたり農業者の経営改善に向けた支援として、複式農業簿記と農業簿記ソフトの講習会を開催しました。

若手女性農業者を中心に複式簿記講習に16名、農業簿記ソフト講習に12名が参加しました。

安房農業の未来を語る夕べ2011が開催されました

安房地区千葉県農業士協会（会長 安西淳氏）では、11月11日「安房農業の未来を語る夕べ2011」を開催しました。

当日は、農業者・関係機関併せて69名が参加。地域・年代・部門を超えた情報交換が実施されました。これからの安房農業の未来に大きな期待を抱くことのできる会となりました。

若手農家グループ南房総ベジタブル「ほ場巡りツアー」を開催

11月27日と12月11日に、就農希望者を対象に、自分たちのほ場を見学してもらおう視察研修会を開催しました。

参加者からは、実際の農業の話が聞けたと、好評でした。



熱心に話を聞く参加者

山崎大祐さん 千葉県代表でプロジェクト活動成果を発表

館山市西岬地区の山崎大祐さんが10月28日に開催された関東ブロック農村青少年(4H)クラブ実績発表会で、千葉県代表としてストックの開花促進技術についてのプロジェクト活動成果を発表しました。



発表する山崎さん

新しく認証された

指導農業者、農業者の紹介

指導農業者は地域農業のリーダーとして青年農業者育成に尽力される方を、農業者は地域農業の推進者として活躍される青年農業者を知事が認証する制度です。今年度、指導農業者に1名、農業者に5名の方が認証されました。

指導農業者

高梨栄一さん(鴨川市)

管内では最大規模の肉用牛経営です。ホルスタイン種、交雑種、黒毛和種を時代に合った飼育割合にして経営効率を上げてきました。近年は黒毛和種を増やし、県産和牛ブランド「かずさ和牛」として流通させています。



農業者

鈴木隆彦さん(館山市)

ストックとトルコギキョウを主力にキンギョソウやベニ

バナを組み合わせた大規模施設花き経営です。神戸花卉生産組合の青年部長を務めました。組織の中核として活躍しています。



櫻井一行さん(館山市)

ストックとトルコギキョウによる大規模施設花き経営です。神戸花卉生産組合ストック部会長を務め、部会全員でエコファーマー認定を取得するなど部会活動を牽引しています。



川名清史さん(南房総市)

養鶏(採卵)+水稲経営です。養鶏は、ポストハーベストフリー、非遺伝子組み換え、抗菌剤や抗生物質不使用の餌を使用した、平飼い有精卵を生産しており、こだわりのある卵として、高値で生協や直売所で販売しています。



折原利明さん(南房総市)

ホワイトレースフラワーやヒマワリ、ハーブ類を中心とした大規模花き経営です。花き業界フットサル大会を開催したり、若手花き農家組織「南房総awahana!」を設立するなど、積極的に交流の場をつくっています。



池田美香さん(南房総市)

酪農経営で、個体能力の向上や自給飼料生産に取り組むと共に、酪農教育ファームに加入し、酪農実習生や消費者の酪農体験を積極的に受け入れています。管内の若手女性農業者組織「ひだまり」の結成に中心的な役割を果たしました。



新規就農者研修会受講者募集

おおむね35歳までの新規就農者の方を対象に3年間。

内容は①農業技術や農業経営について集合研修②視察研修③個別分野について在宅学習。開講は5月下旬予定です。

(株)クロカワストックが日本フラワービジネス大賞2011を受賞しました

カルテットシリーズ、アイアンシリーズなど育成品種がストックの生産拡大と新たな需要開発に貢献した功績が認められ、表彰されました。

文化の日千葉県農林水産功労者表彰受賞

平成23年11月3日の文化の日JA安房温室びわ組合と安房いちご苗委託組合が、千葉県農業の発展に大きく貢献したと認められ、文化の日千葉県農林水産功労者表彰を受賞しました。

ご注意ください！稲のザリガニ防除に登録のありましたバイジット乳剤は平成23年11月30日に登録がなくなりました。